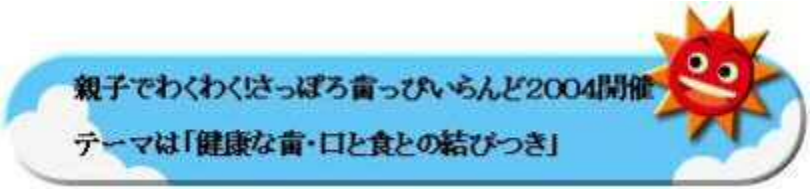
口腔医療センター通信ＮＯ．１

ぱるす

発行日　２００４年７月３０日　第１６号
発　行　札幌歯科医師会立口腔医療センター
〒064-0807札幌市中央区南7条西10丁目
TEL (011)512-9497　　FAX (011)511-2272
http://www.dnet.or.jp/center/
E-mail　omc-s@dnet.or.jp
発行人　菊 田 浩 一　　発行責任者　鶴 岡 一 彦



口腔医療センター企画研修部長　中澤　潤

かむことの大切さや口腔ケアの重要性をアピールするため６月５日（土）札幌市民会館において札幌歯科医師会主催で開催されたこのイベントには５０００人以上の市民の皆さんの参加がありました。
テレビでお馴染みのキャラクターによる｀歯にちなんだ｀ステージショーのほかにもロビーや市民会館前広場にも歯の健康診断・歯の健康クイズなどたくさんのコーナーが設けられ、どのコーナーも大盛況でした。
センターからは障害者診療部所員 渡辺浩史先生、わたしの両名が参加、８０歳を越えても２０本以上自分の歯があるということで表彰されたお年寄りに講話を行いました。
テーマは**嚥下障害・誤嚥性肺炎**とその対策のひとつとしての**嚥下体操**でした。
前半を渡辺先生、後半をわたしが担当しました。
なかにはしっかりメモをとる方も見られ、皆熱心に聞き入っていました。
嚥下体操の発声練習でもお年寄りとは思えないほど大きく元気な声が会場に響いていました。

おいしく食べる事は永遠のテーマです

元気に嚥下体操

口腔医療センターでも摂食・嚥下リハビリテーションをおこなっています。
うまく食べられないでお困りの方は**TEL(011)512-9497**　までお問い合せ下さい。

ネット診療について
上杉　和子さん

我が家は、転勤族、障害者の娘が口腔医療センターにお世話になったのは、仙台から札幌に戻ることが決まり、小学部の養護学校からの帰り道、雪道で転び前歯が１本、半分に折れてしまいましたが、本人が痛がりもしないのでそのまま、札幌へ帰って来ました。
お正月の引越しで、かなり忙しくしていましたが、そんな時、娘の顔が腫れてきました。
驚いて病院を探しましたが、お正月のため診察を受けられず、7 年札幌を離れていて、
勝手が解らず新聞に救急夜間診療を受けられるセンターが在ったので駆けつけると、
折れた前歯の神経が出ていて化膿していたのです。
軽く考えていたので、娘にはつらい思いをさせてしまいました。
夜間診療で仮処置を受け、翌日口腔医療センターへ。この時からのお付き合いが始まりました。
10 歳の娘は多動児で、30 秒と座る事の出来ない暴れ方をしますので、歯医者さんに治療して貰えるとはとても思えませんでした。

しかし、救いの神はネットでした。
かなり厳しい腫れ方で時間のかかる治療に成るとの事。
長時間じっと診療を受けてくれるとは思えませんでしたが、ネットで身体を固定して
開口器で口を開いて手術をして頂きました。
30 分以上掛けて、土台を作り差し歯を作る大仕事、暴れ者の子供が「武器とも凶器とも
思える道具」を使って無事差し歯が出来たことは、本当に感激と感謝で一杯でした。
なんと娘は、時間が長かったので、ぐっすり寝てたのです。
夫は歯の治療で寝るとは、“良い度胸だ”と大笑いでした。
ネットで身体を固定・・・（簀巻きにされる）と思い少し抵抗がありました。
でも結果を見て納得致しました。
歯の病は万病の素、子供の健康を考えるのなら、安全確実な方法です。

その後転勤で、大阪へ、堅い物を噛む娘は差し歯をすぐ外してしまい、大阪で障害者の
治療をしてくれる歯科医に行くと、「人権侵害になるのでネットは掛けません」とのこと。
どんな風に治療をするのかと心配でしたが、娘の順番が来ました。
何と 100 キロは在りそうな男の人が上から押さえ込み数人で手足を押さえての治療を見て、
こちらの方が「人権無視」と母の眼にはみえました。
案の定、娘は怖がり二度と診療室へは入りませんでした。

何度も差し歯をはずすので、スキッパになりますが、幸い土台はがっちりしてますので、
そのままで大きくなり、大阪で高等部を卒業して、古巣に帰り健診を受けにセンターへ行くと、
受付の方も、衛生士さんもメンバーはほとんど変わっていません。
娘が大きくなったと驚いていました。娘も安心の様子です。
その後、親知らずが出てきて、抜歯をする時医大にネットが無いのでレントゲン撮影で大騒ぎ、
まぐれで親知らずの位置を確認して貰う始末。
ネットで身体を固定して貰うことは、人権侵害でも、簀巻きでも無く
安全確実に歯の治療を受ける最良な方法と感謝しています。

子供にネットで治療を受ける事、怖くないよ、理解してもらうのも親の頑張り処かな？

現在 28 歳になり、リコールで診療に通い、ネットから手を出して早く帰ろうとする娘と戦いながら、虫歯の検診・歯石とり・日ごろ難しい念入りな歯磨き・フッ素を塗ってもらい大きな虫歯にもならず、堅い物もバリバリ食べています。
あの時作って頂いた土台もしっかり頑張っていますよ。
健康で痛みのない生活が一番です。
大人でも辛い歯医者通い、我が家の娘はリコール診察のお陰で、虫歯も無く楽しい食事を頂いています。
これからもネットから手を出そうと頑張ると思いますが、先生・衛生士さんよろしくお付き合いお願いします。

佐藤篤さんのお母さん
佐藤幸子さん

はずかしいのですが、口腔医療センターとは長い付き合いです。
息子　篤は今年 札幌養護学校を卒業した１８才です。
今でもそうですが、ここに来るのはとても嫌がります。
まだ、体が小さい時は、だましだまし力づくで診療台まで上げましたが、もう無理です。

支援費制度が始まり、身体介護でヘルパーさん２人と来れるようになってからは、私がとても楽になり、篤 自身も時間はかかりますが、覚悟してロビーまで・・・待合室まで・・・と入れるようになりました。
ヘルパーさんも男性の方が来て下さり、とても助かります。
治療が終わると、まるで別人になりニコニコしていますが、その様子を見ると「もっと、きちんと歯磨きをしなくては」と反省し、篤にも申し訳なく思います。
一般の歯科医院には行けない篤にとって、ここに来れること、また衛生士さん方が、障がいについて理解してくれたうえで接して下さること。
また支援費の導入で、行きやすい環境になったことなど、本当にありがたいです。
まわりが徐々に良い方向へ変化していく中で、篤も私も、もう少し頑張らなければと思っています。

こんなに大きくなりました

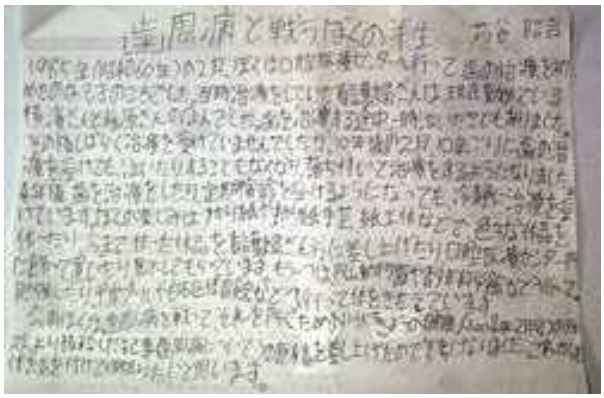
初めて口腔医療センターへ
来院したのが3才の時。
先生に抱かれながら写真を
撮っていた原田亜由美ちゃん
あれから16年の月日が
たちました
早いものですね
今日はこんなに大きくなった
亜由美ちゃんが
甥の楓真くんを抱いています

原田亜由美さん

歯周病と戦うぼくの半生

苅谷昭吉さん

1985 年（昭和 60 年）の 2 月、ぼくは口腔医療センターへ行って、歯の治療を初めたのは 8 才のころでした。
当時治療をしていた衛生士さんは、現在勤めている横濱さんと藤原さんの 2 人でした。
歯を治療する途中、一時泣いたこともありました。
その後しばらく治療を受けていませんでしたが、10 年後の 2 月、10 年ぶりに歯の治療を受けても、泣いたりすることもなくなり、落ち付いて治療をするようになりました。
4 年後、歯を治療をしたり、定期検診を受けるようになっても、冷静に治療を受けています。
ぼくの楽しみは、折り紙や折り紙手芸、紙工作などで、色々な作品を作ったり、今まで作った作品を衛生士さん方に差し上げたり、口腔医療センター内に飾って置いたり、展示してもらっています。
もう一つは、円山動物園や青少年科学館などへ行って勉強したり、平岸プールや白石体育館などへ行って体をきたえています。
今のぼくは歯周病と戦って、それを防ぐため、ＮＨＫ「きょうの健康」（2004 年 2 月号）のテキストより抜粋した記事（歯周病について）の原稿を差し上げたので参考になりました。
これからも体に気を付けて頑張りたいと思います。



内田豊一さんから素敵な詩が届きました

抱擁

内田豊一

少女の季節が過ぎ行こうとしている
豊な感性が音もなく秘て、
全てを覆い尽くすとき、
何かが始まる
愛することに年齢なんて関係ない。

わたし今恋をしている
望むならできる限りのもの捧げたい、
ひとりぼっちの時間が、
これほど、やりきれない、
切ないものだと、幸せと不安とが
交互に訪れていくのだった
今夜も生きし喜びの感謝を込めて
隣接の家庭から賛美歌の歌声が
祈りになって聴こえてくる

どこかの国の女流作家の文章の一節に
「幸福のどん底と言うのがありました
今の想いが丁度そんな感じです」

愛されることよりも
愛することが
幸福だと知りました。

三月の春陽の中に淡雪の降る日
限りない優しさとぬくもりの中に
抱きつつまれてわたしは愛され
少々大人になった気がする。
きらめきの日々と、ときめきの心
けれど、いつしか幸せの色が、
哀しみの色に変わってきました。

幼児の頃飯事ゲームに
可愛い花嫁さんになった時の
楽しさ、嬉しさ、恥ずかしさは
遠い昔に過ぎない。
温かい夢と理想を蘇らせてくれた。

やがて来る優しい春の日射しを
この腕に柔らかく、心軽やかに
大きな愛に包まれて
抱きとめることができますか・・・・・

淡雪の降る再びの夜に
寒椿の真っ赤な花が
音もなく散ってしまった。
己をすてて永遠に
和と勇気をもって
わたしは、あなたを愛し
苦難を耐え忍び
希望の光を喜びに
たゆまず祈り続けたい。

北海道詩人協会々員

吉田明広さんのお母さん
吉田和恵さん

口腔医療センターは、明宏が小学校の低学年からお世話になっています。
小さいころから歯ならびが悪く、歯も順番に生えていない奇形で、そのため歯ﾌﾞﾗｼが大変だったので矯正の治療ができないものかと長年思いをあたためていました。
しかし、自閉症の障害がある子なので治療を本人が受け入れてくれるか心配な上、治療の間、虫歯にならないよう歯ﾌﾞﾗｼをする努力ができるかも自信がありませんでした。
何度か相談をしているうちに、障害のある子の矯正治療を何人か成功させているという北大の先生を紹介してもらいました。
｀チャンスをいただいただけでもいいじゃないー｀
そんな思いから始めた治療でした。
治療に当たってとても感激したことがありました。
何ヶ月もかけて､歯ブラシ指導を通して信頼関係を作っていく先生の患者と向き合う姿勢でした。
障害があっても一個の人格ある人間としてあつかってくれたことは、そばにいた親の立場としてもとても嬉しいことでした。
そして口腔医療センターの方々の、虫歯にならないよう行きとどいた丁寧な歯ブラシ指導。
６年間　口腔医療センターと北大をかよわせていただき､今年ワイヤーを取ることができました。
治療を通して多くのことを学ばせていただいたように思います。
チャレンジする大切さ・途中で本人の状態を見てやめる勇気・覚悟。
多くの人々にささえられ、助けられて乗りこえられたと感謝でいっぱいです。
せっかく治した大切な歯。これからも歯ブラシをがんばっていきたいです。
それで、障害があっても可能性をいっぱいもっていることを多くの人に伝えたいと思います。

矯正治療が始まりました

**（写真提供は北海道大学病院歯科診療センター咬合Ｃ系　矯正科
高木洋美先生のご好意によるものです）**

**こんなにきれいになりました
よくがんばりましたね**

支えてもらっていることを忘れずに

田中宏典さん

いつも口腔医療センターでお世話になっています田中宏典です。
定期検診に行くと、「原稿を書かない？」と言われビックリして、
戸惑ってしまいました。
結局は、引き受けてしまいました。
過去の「ぱるす」を読むと、皆さん歯や口の事を書いていますが、私は恥ずかしいですが、
書けませんので、悩んだ結果、全く関係ありませんが、自分の活動について書きます。
嫌がらず読んで頂けると嬉しいです。

私は、パソコンが得意なので、高校の時からずっと「教えて行けるような仕事をしたい」と
思っていました。今やっと知っている方々に、「教える」ということについて教えて頂きながら、
「パソコンを教える」という活動をし始めたばかりです。
活動していく中で「パソコンって何？」という方々が、まだまだ多いと感じました。
「それなら、私の経験を通じて、伝えていくことができるんじゃないか？」という思い始めました。
「教える」ではなく「伝えていく」ということをモットーに、特に「マウスが苦手な方」に
「キーボードでも同じようなことができる」ということを中心に伝えています。
目標は、どんな重度な障害があっても、パソコンを持って訪問にいき、「誰でもパソコンが
使えるんだよ」「パソコンっていろんな可能性を広げてくれるだよ」ということを伝えて
行きたいです。

最後に、みんなに支えてもらっているからこそ今の自分がいる。という事を忘れずに
これからもいろんなことに挑戦していきたいと思っています。

私のホームページ、もし良かったら見てください。（他にも活動をしています）

http://www7.plala.or.jp/asone/

もし何かありましたらメールをお待ちしています。

hiro26@gray.plala.or.jp

センターの所員の先生の中には、秋の学会発表シーズンをひかえて
夏休み返上でがんばっている先生がたくさんいらっしゃいます。
これらの研究成果がまたセンターでの治療に役立つことになります。
そういえば夏休みの宿題は早めに済ますのがいいってことは昔から
わかっていたことなんだけれど・・・。

（企画研修部長　中澤　潤）